

COLLEGE WOMEN'S ASSOCIATION OF JAPAN

APRIL 2015

CWAJ annual report 2014-2015



CELEBRATING 60 YEARS OF CWAJ PRINT SHOW

会長からのメッセージ

友人の皆様へ、世界各地では、教育を受けた女性たちが家族や社会の制度変革を推進する原動力となって活躍しています。コフィ・アナン前国連総長が述べたとおり「女子教育は今日の世界で突出して利回りの高い投資」なのです。CWAJ は自国外の大学で学ぶ女子留学生と日本の視覚障害学生（男女）を対象に奨学金や海外渡航費援助を60年以上にわたって提供しており、最近では福島県立医科大学看護学部で学ぶ学生にも同様の支援を行っています。これらの奨学金は個人・企業からのご寄付と、国際的にも評価の高いCWAJ 現代版画展の純益によって支えられています。CWAJ は視覚障害者向けの画期的なプログラムをはじめ、子供から成人まで幅広い層への教育活動

にも携わっています。こうした多岐にわたる活動を通じ、国も文化的背景も異なる会員が互いの国の文化への理解を深め、長きにわたる友情を育んでいます。CWAJ の組織運営や広報活動、会員対象の行事などの費用はすべて会費で賄われ、外部からの寄付金は全額がCWAJ の教育・奨学金プログラムに充てられます。

第60回CWAJ 現代版画展は、2015年は東京・神戸で、2016年には米国東海岸ケープ・コッドで開催の予定です。当会にとって大きな節目となる第60回CWAJ 現代版画展によってさらに多くの資金を調達し、将来にわたって多数の奨学金を提供することができるよう願っております。これまで皆様からのご寄付によりCWAJ 奨学金およびCWAJ 福島支援プロジェクトを続けてこられたことを、心より感

謝いたします。国際交流基金から特定寄付金制度の活用を認められたことは、CWAJ 奨学金のさらなる拡充につながることでしょう。また一般社団法人東京倶楽部からの助成金は、2014年を締めくくる嬉しいニュースでした。この資金により、美術・美術史専攻の外国人女子大学院生を対象としたCWAJ 現代版画展60周年記念奨学金と、版画展の歩みをたどる60年史の出版を予定しております。この素晴らしい歴史を持つ団体の会長を務めさせていただき、大変光栄に思っております。2015年には版画展60周年のためのさまざまな記念行事が予定されており、そこで皆様にお目にかかれることを心待ちにしております。

CWAJ 会長
ナシシー・ナスバウム

第60回 CWAJ 現代版画展のお知らせ

CWAJ は1956年以来毎年CWAJ 現代版画展を開催し、展示・販売することにより、日本の現代版画の魅力を広く世界に伝えるとともに、その純益で800名以上の学生や版画家に奨学金や助成金を提供してきました。本頁トップの写真は、59回までの版画展カタログの表紙を集めたものです。当版画展が60周年を迎えるにあたり、版画界の皆様への感謝とさらなる発展を願って、若手版画家を対象としたCWAJ 現代版画展60周年記念大賞を設けました。今年はこの大賞展と、約130名の作家による約160点の作品を通して版画展の歴史を辿る招待作家展の特別企画でお送りします。大賞展（大賞賞金60万円、入選60点）では、1974年以降生まれの作家の斬新で意欲的な大作をお楽しみいただけます。

130余名の招待作家のうち2名は、第1回展に出品くださった方々です。また一部の作家については、CWAJ に初めて出品された時期の作品と最近の作品を並べてご覧いただけます。

同時期に3週間にわたって開催される併設展では、版画展初期からご協力くださった著名な物故作家の作品を集めて展示いたします。

さらにCWAJ では、版画展の記録を綴った「版画展60年史」を編纂中です。日本版画史の一側面を見るうえでも貴重な資料になるものと自負しております。

お問合せ：PrintShow@cwaj.org

東京展

会期：2015年10月30日（金）～11月1日（日）
会場：東京アメリカンクラブ（港区麻布台2-1-2）

神戸展（神戸ビエンナーレ連携事業）

会期：2015年11月6日（金）～11月8日（日）
会場：神戸倶楽部（神戸市中央区北野町4-15-1）

併設展

会期：2015年10月19日（月）～11月8日（日）
会場：東京アメリカンクラブ フレッド・ハリス・ギャラリー

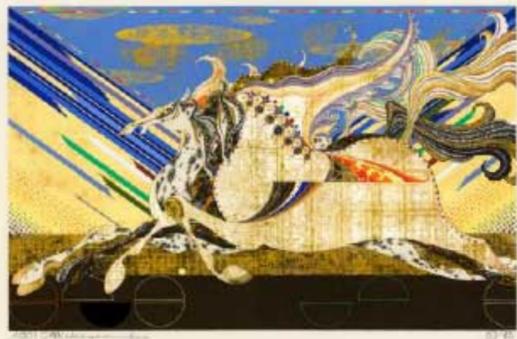
米国展

会期：2016年6月23日（木）～9月4日（日）
会場：Highfield Hall & Gardens
（マサチューセッツ州ファルマス）

第59回 CWAJ 現代版画展

2014年の第59回 CWAJ 現代版画展は、10月16日夕刻のオープニングから19日まで東京アメリカンクラブにて開催され、招待作家39名と公募で選ばれた版画作家162名による201作品が展示・販売されました。

CWAJ 版画展の魅力のひとつは、総カラー、日英二か国語で全作品を掲載した美しいカタログにあると言われます。午年にあたる2014年にカタログの表紙を



飾り、会場入口正面で来場者の注目を集めたのは、中山正氏の精緻にして流麗な木版画、『蒼き午後の走馬』（写真上）でした。中山正氏は1927年生まれ。CWAJ 版画展には招待作家として2014年が43回目の出品でした。中山氏はCWAJの活動に賛同し、長年にわたって高額の作品をご寄贈くださ

いましたが、寄付者としてお名前を出すことを固辞してこられました。そのご厚意は、これまで多数の奨学金として実を結びました。

今回カタログの表紙に使わせていただきたいというお願いをご快諾くださり、喜んでくださった中山氏は、大変残念ながら2014年夏に逝去されました。この場を借りて深く哀悼の意を表しますとともに、長年にわたるご支援に心より感謝申し上げます。

アメリカンクラブのフレッド・ハリス・ギャラリーで開かれた2014年の併設展は、和食が世界文化遺産に登録されたことにちなみ、『食とアートとの饗宴』と題して食をテーマにした版画と絵画を集めました。それぞれ独自の切り口で食物を描いた、安齋歩見、金昭希、岸雪絵、宮本承司、ねねのりご各氏の作品は、大好評を博しました。

視覚障害者に版画を楽しんでいただくための「ハンズ・オン・アート」も、CWAJ 版画展が続けているユニークな企画のひとつです。出品作品の中から数点を選んで立体コピーを作成し、手で触れて鑑賞できるようにしたものです。（写真右）



また CWAJ は若い版画家の支援の一助として、1985年に「CWAJ 版画家奨励賞」、2005年に「CWAJ ヤングプリントメーカー賞」、2011年には奨励賞に代わって「CWAJ アーティスト・イン・レジデンス・プログラム」を創設しました。第59回展では2014年のYPA受賞者岡田育美さんと、2011年の同賞受賞者廣瀬理紗さん、2013年のアーティスト・イン・レジデンス・プログラム受賞者の門馬英美さんの作品が展示・販売されました。

2015CWAJ ヤングプリントメーカー賞 (YPA賞)

1名 賞金50万円

増田 奈緒

東京造形大学大学院2年

賞金は、個展の開催と修了制作の作品集の制作、銅板プレス機の購入にあてる予定です

福島支援プロジェクト

未曾有の大災害から4年が過ぎましたが、CWAJ は気持も新たに、教育・アート・国際理解という創立理念に沿って福島支援プロジェクトを拡充させています。これからも有意義なプログラムを提供することで、厳しい環境にある福島の方たちに寄り添い続けたいと思います。

こころのケアセンターなごみ

東日本大震災後に CWAJ が最初に取り組んだ被災地支援は、相馬市にある「相馬広域こころのケアセンターなごみ」に送迎用車両を送ることでした。車椅子対応の車は、利用者の送迎のほか、看護師やスタッフの巡回訪問用としても活躍しています。CWAJ は2014年も自動車保険料および車検費用として、約20万円を「なごみ」に寄付しました。

福島被災学生奨学金

福島県立医科大学看護学部の学生を対象に設立されたこの給付型奨学金も4年目を迎え、2015年度も2名の奨学生が選ばれました。支給額50万円は、ほぼ1年間の授業料に相当します。初年度2012年の奨学生はすでに看護師や保健師の国家試験に合格し、原発事故で避難生活を続ける住民などを支える保健師、助産師として、地元コミュニティで献身的に活動しています。

初年度の奨学生で現在いわき市で保健師として勤務する山田紘子さんは当時を振り返り、

「実家が被災してどん底にあった私たちは、この奨学金で経済面だけではなく精神的にも救われました。CWAJ の多くの皆様から励ましの言葉をいただいたことが、当時だけでなく現在も励みになっています」と語りました。

福島アート・プロジェクト

2014年7月27日に福島県立美術館、28日に須賀川市牡丹会館で、多摩美術大学の海老塚耕一教授のご指導のもと、子どものためのアート・プログラム「あそびじゅつ」を開催しました。それぞれ約40名の子どもが参加して、自由なアートを楽しみました。美術館での『道具を使ったおもしろ絵画』は、彫刻



刀や糊などさまざまな道具を使ってベニヤの版を作り、足で踏んで版画を刷り上げるものです。須賀川のプログラム『自分を描こうなに描こう』では、子どもたちが段ボールに寝そべて等身大の自分を切り取り、色を塗ったり布を貼ったりして仕上げました。両会場には福島被災学生奨学金を受けた元奨学生、現奨学生6人も救護係や助手として参加し、大活躍しました。美術館や須賀川商工会議所青年部の協力を得て2年がかりで実現させたこの企画は大好評を博し、2015年も福島県内2か所で開催する計画が進んでいます。完成した作品の一部は10月のCWAJ 現代版画展会場でも展示されました。

福島県須賀川市で開催される小中学生の版画コンクール「田善顕彰版画展」の田善賞（最優秀賞）副賞として、受賞者計2名と保護者を、前年に引き続き2014年のCWAJ 現代版画展に招待しました。須賀川出身で江戸時代の銅版画の草分けとして知られる亜欧堂田善を記念して設立されたこの版画展には、毎年3000点以上の応募があり、小学生の部、中学生の部それぞれから田善賞が選ばれます。2015年も同賞の作品がCWAJ 版画展で展示され、受賞者は東京の会場に招待されることになっています。

子供のための英語プログラム

福島の子どもたちのための楽しい英語クラスは、CWAJ の強みを生かした新しい支援です。英語を使った国際交流と英語指導でのCWAJ の豊富な経験と知識を役立てることができました。2014年7月20日、福島県郡山市の屋内あそび場「ペップキッズこおりやま」で、英語クラスを2回開きました。3~7歳の子どもたち約40名が参加して、ゲームや歌、おはなしなどで楽しく英語に親しみました。ある児童からは「えいごってたのしいね!」という声が上がりました。また前日のイベント「まなそびサマーフェスティバル」では、工



作やゲーム、英語の本の読み聞かせなどのコーナーを担当し、約50名の子どもたちと交流しました。

世界で求められる人材を育てる

— CWAJ 奨学金



「グローバルな人間になるためには、自ら考える力やコミュニケーション能力を身につけ、海外留学によって視野を広げることが必要です」2014年5月CWAJ 昼食会で

の講演で、東京大学初の女性理事（2015年3月退任）で1984年にCWAJ 海外留学奨学金を受けた江川雅子氏は、日本人が世界で求められるキャリアを構築するための方法を解説しました。東京大学もグローバルな人材育成を目標にしており、女性にも平等な機会を与えることが今後ますます重要になるということです。江川氏はまた、CWAJ 奨学金でハーバード・ビジネス・スクールに留学したことが、自身がグローバルな道へ歩み出すきっかけになったとして、感謝の言葉を述べました。

個人・法人のご寄付と、毎年開催されるCWAJ 現代版画展の純益などによって賄われるCWAJ 奨学金プログラムは、現在までに338名の女性を含む800名近い学生の海外留学と国際的なキャリア構築に寄与してきました。2014年度も8名の学生に

奨学金が支給されましたが、そのうち2名はシリアに関わりがあり、1名はバングラデシュの出身です。詳しいプロフィールはCWAJのウェブサイトで紹介されていますので、ご覧ください。

1978年、CWAJは日本で初めて視覚障害のある男女学生だけを対象とした奨学金を設立しました。以来現在までに、大学・大学院で学ぶ68名の視覚障害学生を支援してきました。2005年にCWAJ 奨学金を受けた大胡田誠氏は、大変な努力の末に5回目で司法試験に合格して弁護士になる夢を実現させ、現在は法廷で活躍しています。弁護士となってからもさまざまな偏見と闘ってきましたが、目が見えないからこそ直感で事件を解決に導いたこともあり、次第に功績が認められるようになったということです。2012年には大胡田氏が自身の半生を綴った著書、『全盲の僕が弁護士になった理由』が出版されました。さらに2014年12月には、この著書をもとにした同名の2時間ドラマが放映され、大きな反響と感動を呼びました。

2014年9月の昼食会では、2009年のCWAJ 創立60周年記念奨学金受賞者で、今回CWAJの招きで来日したサンドラ・グリーン・ガヤガイ氏が紹介されました。同奨学金はフィリピンで医師を目指す女性1名に4年間の学費および1年間のインターン費用

を支給したものです。日本滞在中にフィリピンの医師試験の合格通知を受け取ったガヤガイ氏は、「CWAJのおかげで夢だった医学部に5年間通うことができ、人生の方向が変わりました」と感謝しながら帰国しました。現在は医療体制の整備が遅れている故郷およびその周辺で、医師として活躍しています。



このようにCWAJ 奨学生は、日本および世界各地のさまざまな分野で、より良い世界を作ることを目指して活動しています。戦後まもなく渡航費援助として始まったCWAJ 奨学金制度をここまで続けてこられたのも、今年60周年を迎えるCWAJ 現代版画展で皆様に版画をご購入いただき、資金を集めることができたからこそです。日本を取り巻く世界情勢も変化し、経済的には厳しい状況が続いています。CWAJが提供する奨学金の数も以前に比べて少なくなっています。しかしCWAJはこれからも細く長く、日本そして世界のリーダーとなり、より良い世界を創ることに貢献できるグローバルな人材を育成するために、奨学金の支給を続けてまいります。

2014年度 CWAJ 奨学生

CWAJ 海外留学大学院女子奨学金

1名 支給額 300万円

竹内 晶子 (たけうち あきこ)

留学先：コロンビア大学公衆衛生学修士課程
(米国)

専攻：公衆衛生

CWAJ 視覚障害学生奨学金

2名 支給額 各150万円

岩田 翔太郎 (いわた しょうたろう)

在学：大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程

専攻：物質創成

中村 雅也 (なかむら まさや)

在学：立命館大学大学院先端総合学術研究科博士課程

専攻：教育社会学



CWAJ 外国人留学生大学院女子奨学金

1名 支給額 200万円

リファイ、ガムラ (シリア・アラブ共和国)

在学：新潟大学自然科学研究科博士課程

専攻：材料生産システム

CWAJ 東京アメリカンクラブ・ウィメンズ グループ奨学金

1名 支給額 200万円

ワハブ、ルナ (バングラデシュ人民共和国)

在学：総合研究大学院大学生理学研究所博士課程

専攻：生理科学

CWAJ アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター奨学金 (IUC)

1名 支給額 200万円

マザ・ヒルウェイ、フィロミーナ (米国)

在学：シカゴ大学東アジア言語文化研究科博士課程

専攻：日本研究

CWAJ 福島被災学生奨学金

2名 支給額 各50万円

長澤 園子 (ながさわ そのこ)

福島県立医科大学看護学部3年

高橋 紗也可 (たかはし さやか)

福島県立医科大学看護学部3年

コミュニティ・サービス

視覚障害者との交流の会

2015年に設立40周年を迎える視覚障害者との交流の会は視覚障害者のニーズに応えた活動を続けています。日本盲人職能開発センターでは職業訓練の一環として週2回、2時間、英会話の指導をしています。2014年には約100回の指導をしました。



また、筑波大学附属視覚特別支援学校において、2月、6月、10月の5日間、40名の高校生に英語検定の模擬面接試験を実施しました。模擬試験を受けた生徒からは「自信がついた」、などの嬉しいコメントが寄せられました。

英会話の集いは、視覚障害者がさまざまな文化背景を持つCWAJ会員やゲストと、英会話を楽しみながら異文化に触れる集いです。2014年3月の集いでは、視覚に障害のある参加者が、それぞれ思い出に残る楽しい旅行談を披露しました。9月にはCWAJ創立60周年記念奨学金を受けて医師になったガヤガイさんを迎えて、母国フィリピンのことを学びました。また昨年最後のECGではオーストリアのクリスマスを楽しみました。

CWAJの活動や興味深いエッセイなどを紹介する視覚に障害のある読者を対象とした日本語のVVIニュースレターも、メール、点字、拡大コピーで発行されています。2014年は延べ611名に配布されました。

CWAJでは全ての活動で視覚障害者を支援しています。

チルドレンズ・イングリッシュ・サークル

英語圏などから帰国した小学生が覚えた英語を保持できるように、毎週水曜日に東京ウイメンズプラザにてチルドレンズ・イングリッシュ・サークルを開催しています。2014年度には32回実施しました。

外国人留学生との交流の会

日本で学ぶ留学生に日本文化のプログラムを提供しています。また留学生が異文化体験を通し相互理解が深まるように、CWAJボランティアがメンターとなってサポートをしています。2014年度は8カ国からの留学生を迎え、盆石・歌舞伎・茶道・流鏝馬・皇居内庭園散策・神式結婚式の見学などのプログラムを楽しみました。



カルチュラル・プログラム

CWAJでは異文化交流を進めるため、月例昼食会の講演に加え、おりにふれて文化的・教育的なイベントを開催しています。また会員向けには趣味や興味を共有するメンバーによるスペシャル・インタレスト・グループが用意されています。

2014年に行われた2回のイベントは、それぞれ内容は異なりますが、同じように実りの多いものでした。5月10日には、アウシュビッツに送られたユダヤ系チェコ人の少女ハンナ・ブレイディのかばんにまつわる感動的な実話をもとにした映画『ハンナのかばん』上映会が行われました。東京ホロコースト教育資料センター代表の石岡史子氏が、第二次世界大戦中のユダヤ人の子どもたちの苦しみを何とか日本の子どもたちに伝える策はないかと思案していたところ、教材としてアウシュビッツからこのかばんが送られてきたことから生まれた物語です。上映後には石岡氏の講演が行われ、波乱に富んだ苦悩の旅の経験や、カナダでついにハンナの兄を探し出したことが語られました。

10月31日にホテル椿山荘で行われたイベント『すばらしき和食の世界』では、辻調理師専門学校校長辻芳樹氏の講演で、伝統的な和食とはどういうものか、和食のどこにユネスコ無形文化遺産に指定される価値があるのかについて学び、その後同ホテル内の錦水亭で本格的な会席料理を楽しみました。



CWAJ はこんな団体です

一般社団法人CWAJ (College Women's Association of Japan) は、さまざまな国の女性たちが幅広い交流の中で友情を深めながら、首都圏を中心に教育・文化活動をおこなっているボランティア団体です。

1949年に日本人留学生への渡航費援助を目的に発足した小さなグループが、現在では約30カ国から集まった450名の会員を有する会となりました。全員が無償のボランティアとして、毎年版画展やさまざまなイベントを開催し、その純益で奨学金を提供するほか、視覚障害者や帰国児童のための英語クラスなど、楽しみながら教育支援を進めています。活動は外国人と日本人がペアを組んで、原則として英語でおこないます。

CWAJ入会についてのお問合せはこちらへどうぞ。

membership@cwaj.org

すぐれた講師を招いて開く月例昼食会の講演は、世界でリーダーになれる女性を育成するというCWAJの使命感を強めてくれる内容です。

会員向けのスペシャル・インタレスト・グループは、陶芸・ハイキング・外国語会話・手芸・コーラス・読書会など多岐にわたっており、会員は楽しみながら学んでいます。



その他の募金活動

現代版画展の純益とご寄付に加え、CWAJでは毎年ラッフルによる募金活動も行っており、版画展の最終日に会場で抽選会が行われます。2014年のラッフルにアメリカ往復ビジネスクラスのペア航空券をご寄付くださいましたデルタ航空、ならびに素晴らしい賞品をお寄せくださいました方々に、心より御礼を申し上げます。

またカルチュラル・プログラム、VVI、CECなどの活動からも募金が寄せられています。「フレンドリー・クラフターズ」グループは、2011年以来、美しい手作り作品を賞品にしたラッフルを12月に開催しています。

ご支援ください

CWAJでは、年間を通して、CWAJ教育・奨学金プログラムとCWAJ福島支援プロジェクトへの寄付をお願いしています。皆様からのご支援が、日本と世界の若者たちの勉学の夢をかなえ、福島のコミュニティに力を与えます。寄付の手続きに関しましては、寄付・支援者担当委員長カルメン・オオタキ、池永路代までお問い合わせください。

donations@cwaj.org

国際交流基金

2014年、CWAJ女性のための国際文化交流奨学金制度が国際交流基金の特定寄付金制度の対象事業として認められ、この事業への寄付は税制上の優遇措置の対象となりました。国外で学ぶことを選択し、日本の文化を世界に広めて行く日本人および外国人の女子大学院生への奨学金の拡充を図って行きたいと考えています。



CWAJ College Women's Association of Japan

一般社団法人CWAJ

CWAJセンター

141-0021

東京都品川区上大崎 2-24-13-703

Tel/Fax 03-3491-2091

www.cwaj.org